

# NIGHT

鎌倉の不思議な夜の話

地震 雷 火事 オヤジ・・・代々日本人が怖いと感じるベスト4である事は言うまでもない。が、しかし本当はこの後にはまだ続きがある。地震、雷、火事 オヤジ、借金、女房、お化けに毛虫。たかだか語呂合わせと侮ってはいけぬ。世にも恐ろしい体験を持っている人も貴方がたの中にもきっといるはずである。私の場合もこんな話の始まりの例にもれず、その世にも恐ろしい体験を持っている一人である。私にとって恐いものとは言え、やはりお化けであった。あえて過去形にしたのにはそれなりの訳があっての事であるからそれを今からお話しよう。

私は知人の勧めと自らの下心から、数カ月ほど前にここ鎌倉の稲村ヶ崎のとあるアパートに引っ越してきた。そこは目の前がすぐ砂浜になっていてそれはもう実に実に湘南湘南していて、根っから田舎者の私は湘南の輝く太陽の光りを脂ぎった顔で反射しつつ、その頃の私はそれこそ考え得る限りのあらゆる妄想に近いようなエッチな期待で胸が膨らんでいた。そのような時に果たして誰かそが古き鎌倉時代の血なまぐさい古戦場であったとか、そう言えば変だった不動産屋の女主人の口籠る言葉の端々など気に掛けようか。が、しかしそんなお気楽な私を震憾させるような出来事が数カ月後の或る夜遂に起こるのである。

その夜いつものように私は部屋に寝ころんで本を読みながらいつの間にかうつらうつらとしてしまったようだった。いつのまにか重苦しい部屋の空気に圧迫されるような心持を感じ目を覚ました。そして何気なく部屋の片隅に目を遣ると・・・確かに、確かに、見えたのである。兜よろいに身を包み、馬に股がった武士の姿・・・馬は頭や首を切られ血が吹き出している。そしてどろりとした目でこちらを睨みつけている。どうかしようにも気が付くと身体が自由が全くきかない。助けを呼ぼうにも声も出ない。私はぼう然とする意識の中でとにかく何とかしなくてはとあえいたが、数分間彼らからの一方的な意志の伝達が行なわれた。

その夜以来彼らは私が眠りにつく頃になると現われるようになり、恐怖と不眠にさいなまれ続けた。或る夜徹夜した私のところにまた彼らが登場した。私の精神状態はもう限界である。

そうだ！彼らと話し合いをしようではないか。話し合いによる解決に持ち込むしかない。私は動きの取れない体で一心に彼らに話し掛けてみた。「コンパン」 「・・・」 「コンナニオソクニドウシタノデスカ」 「・・・」 「リッパナヨロイデスネ」 「・・・」 「ケ、ケイサツヨヒマスヨ」 「・・・」 「？」 どうも現代語はつうじないようだ。そこで暫く重い悩んだ末「ドウカ、ジョーブツシテクダサイ」と言ったとたんアラ不思議、背中がスッと軽くなり手足は自由になり声も出る。私は遂に彼らとコミュニケーションしたのである。その後も彼らは時折姿を見せるがその度に心の中で『どうか成仏して下さい。』と唱えることにしている。無論それ以来部屋に線香と水は欠かした事はありません。信じない人は一度家に遊びに来てみて御覧なさい。皆でお待ちしております。



Milk Hall Times 28th

XV<sup>ME</sup> SALON  
des artistes  
DECORATEVRS  
du 8 mai au 8 juillet  
GRAND-PALAIS  
porte métro champs-élysées  
et jean gouyon. entrée 2<sup>e</sup> vendredi 5<sup>h</sup>

## AIR MAIL

サンフランシスコからの便り No.1

ミルクホールへ

元気でしょうか。メキシコから3~4枚葉書を出しましたが、無事に届いたでしょうか。メキシコのアハカという町で日本人の絵描きに会いました。その人からのお願いで、ミルクホールでメキシコの民芸品を売ってくだらないかとのことです。彼女はインディオ救済と自立の為にお金を集めているらしく何とか日本で民芸品を売れないか、案案していたそうです。もしOKならば僕に手紙か電話で知らせて下さい。それから僕が彼女に知らせます。彼女は60才過ぎの老人で東京生まれの東京育ちだそうです。メキシコには10年位住んでいます。品物選びには自信があると書いていました。今サンフランシスコでは国際映画祭をやっていて毎日の様に映画を見ている。日本からも"SO WHAT" (ソーホワット) という映画が来ているらしいです。

僕は3月29日から学校へ行き始めます。  
アメリカ人は楽観的すぎるのであまり好きではありません。

No.2 14 Mars 1989 Pour Dimitry San Francisco

ミルクホールへ

黒鯛は釣れたでしょうか。僕は釣れていません。海にはよくいくのですがまだ釣りはやっていません。まだ日々の生活に追われて余裕が無いのでしょう。お金と手紙は無事に受け取りました。さっそく来週『のみの市』に行こうと思っています。アメリカには狂人が多いです。平均して一日に一人は見ることがあります。バスの中で一人で笑っていたり新聞を食べていたり、色々います。かなり怖い国です。殺されないように気を付けようと思います。最近多少はアメリカ人を好きになってきました。アメリカ人は何に対しても自由です。ゲイであろうと狂人であろうと気にせず暮らしています。そういう所は好きです。アメリカ人についての考察は随時知らせます。おもしろい発見があったらすぐに書きます。ではまた。

サンフランシスコのトール君へ

度々のお便り有り難う。トール君のお便りが届くとカウンター裏に貼って皆でかわるがわる覗いては声を出して読んだりして1週間は楽しんでます。今でも一日に一度はトール君のあの囁くような声で『まあまあね』と言う口真似が誰かの口からでます。そういえば私が10数年前初めて地方都市から東京に出てきて住み着いた時の印象も、『ここは狂人が多い』という事でした。そして街にはカラスが飛び、私にとっては酷く暗い街に思えたものでしたがやはり『住めば都』でしたね。またお便り下さい。皆とても楽しみにしています。 鎌倉ミルクホールにて



★お知らせ

6月10日土曜日  
PM7:30~閉店迄  
ミルクホール  
オークションを  
開催します。  
どうかご参加下さい。  
FEE ¥1500  
ONE DRINK&SNACKS

★編集部より

ミルクホールタイムス4月号は都合により休刊させて頂きました事をお詫び致します。又、5月は、臨時増刊も予定しております。どうぞご期待下さい。なお定期購読希望のお客様は、62円切手12枚をミルクホールの方までお送り下さい。ミルクホールタイムスを毎月郵送致します。

